

# 農業経営者

耕しつづける人へ

FARMERS' BUSINESS

特集

ラウンドアップの  
風評を正す

提言 専門家インタビュー

ペドロジスト

土壌学者に聞く  
農地の土壌との付き合い方 前編  
～土壌断面調査から読み解く土づくり～

時流 土門「辛」聞

ドローンはスマート農業の「旗手」たりえるのか

新 農業経営者ルポ 牛島謹爾シリーズ③

進取の気性で開園した自然植物公園に  
島の人口の200倍を呼び込む



久留米市教育委員会所蔵

(株)能古島  
のこのしまアイランドパーク  
代表取締役社長  
久保田晋平 (福岡県福岡市)

2019 June

6

No.279

農業総合専門サイト  
農業ビジネス  
「農業経営者」定期購読者は279号ま  
での「農業経営者」バックナンバー登  
録記事を無料でご覧いただけます。  
>>> <http://agri-biz.jp> <<<

# 農村経営研究会視察会 エコをコンセプトとした地域づくり

▶4月26日  
(千葉県匝瑳市)



匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所

Three little birds (スリーリトルバード)だ。現在、麦や大豆、サツマイモなどを有機栽培で生産している。もともと山を削ってつくられた農地なので、土壌は排水性が悪く、日照りになるとカチカチに固まってしまう。そんな土地を土壌微生物からミズまでいるような肥沃な土壌にするため、あえて除草剤を使わず雑草も緑肥として活用している。動物性有機物も使用しないという徹底ぶりは、有機農法というより自然農法に近い。それでも在来種の大豆は全国平均に近い10a当たり150kgという収量を確保している。こうしてパネルの下で農業を営みながら、

**エコをテーマに、人々と企業が集まり、地域の人とお金が動く**  
農村経営研究会でしばしば課題として挙げられるのは、地域の人々をどう巻き込んでいくかということだ。今回視察した市民エネルギーを中心とした地域づくりは、匝瑳市行政も地域住民も参画している。その理由は、ソーラーシェアリングのための資金が、発電や農業などの事業を経て、地域が必要としている活動に「シェア」されているということが大きいだろう。まずソーラーシ

アリング事業に対して、環境意識の高い金融機関や企業などから資金が提供される。その資金を使って匝瑳ソーラーシェアリングや市民エネルギーのソーラーシェアリング事業がお金を生み出す。そのお金は地域協議会や農業生産法人、NPO法人などに提供され、そこからさらに子供支援や移住者対策、耕作放棄地の再生、新規就農者支援、環境保全活動など、地域再生事業に活用されている。東氏は、このお金の流れと事業活動を「シェアとオーガニックをテーマとした連携」と呼んでいる。

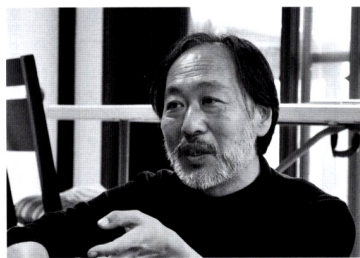
東氏が18年に設立した農業生産法人Reは、ソーラーシェアリングによる営農に加え、パネル下で生産した作物を原料にビールや醤油などの加工品開発をしている。また、東氏はもともと東京都出身ということもあり、都市の人々が喜びそうなモノやサービスを提供しよう、とさまざまなアイデアを事業展開している。たとえば、地元食材を提供するカフェや、築200年以上の古民家を再生しての農村民泊、農業体験、市民農園をはじめ、炭焼き、小屋づくり、木工、間伐、薪割り、陶芸、パーベキュー、加工品づくりなど、「農村らしさ」を満喫できるレジャーが用意されている。こうしたサービスを通じて、エコや農業に関心のある

千葉県匝瑳市に、エコをコンセプトとした地域づくりに力を注ぐ人々がいる。ソーラーシェアリングと有機農業をはじめ、商品開発事業、食生活、住まい、レジャーまで一貫してエコにこだわった活動をしている。ひとつの地域において、生態系をベースとした経済・文化・社会の循環のあり方を実現しようという姿勢は、同じ理想を持つ人々の共感や環境意識の高い企業の期待を集め、さらに好循環へとつながっている。

視察団は、17年4月に完成した匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所を視察した。面積3・2ha、設備容量1メガワット、年間発電量142万4000kWh、一般家庭300世帯の電力消費量を賄う。ソーラーシェアリングとしては日本最大の規模である。運営は、市民エネルギーちば合同会社100%出資の匝瑳ソーラーシェアリング合同会社(代表は椿氏が手掛け、電力会社への売電によって収益を得ている。総工費約3億円、年間売電額は5400万円。資金は、城南信用金庫の融資とSBIエナジーの社債によるものだ。

ソーラーシェアリングは、一時ブームとなった投機的な手段としての太陽光発電とは一線を画す。かつて、太陽光発電と言えば、地面を完全に覆うタイプのもので、山を切り崩し

ることができ、風も逃がすことができる。ソーラーシェアリングの技術についての詳細は、本誌2018年12月号の特集を参照してほしい。ここではソーラーシェアリングを含めた地域づくりを紹介する。



東光弘氏